

ハンガリーの保育園と保育事情

大槻千秋

The nursery schools in Hungary and situation of infant education

Chiaki OTSUKI

キーワード：乳児保育園と幼児保育園、国の育児支援、保育制度

Keywords : Nursery schools for younger children, Nursery schools for children, National aid to young parents, The system of education for children

I. はじめに

筆者は大学院生の時（1981年）に、H教授のゼミでハンガリーの保育について知った。講師として招かれたのは、ハンガリーで保育者として何年か働いてこられた方であった。彼女から、ハンガリーの保育学が進んでいること、国の子育て支援の制度が進んでいることを聞いた。当時は共産圏の国であったハンガリーでは、ほとんどの女性が働いており、出産しても3年間の育児休暇を取って職場復帰するのが当然であるとのことだった。日本ではまだ1年間の育児休暇すら取る女性が少なかった時代に、ハンガリーでは子どもが2歳になるまで、働いていた時の給与の7割が支給されるのだという。当時乳幼児を抱える学生だった筆者には想像もつかないことで

あった。

その後15年ほど経って、筆者もハンガリー語を学ぶようになり、教師のついでハンガリー人の友人ができた。彼女はたまたま幼児保育園（Ovoda オヴォダ、IV節参照）の保育士であった。彼女の誘いでハンガリーに行って彼女の家にホームステイし、地元の人々と会い、幼児保育園を訪問し、子どもたちに触れるようになった。2007年には1週間ほど彼女の勤務する幼児保育園で保育体験をした。当時筆者の働いていた都内の保育園と比較して、大きな違いがあった。本報告では、筆者の実際の体験をもとに、ハンガリーの保育事情や人々の児童観を紹介する。



＜図1＞ヨーロッパの地図²⁾

Ⅱ. ハンガリーという国について

図1に示すようにハンガリー共和国はヨーロッパの中央部に位置している。外務省基礎データによると、人口は983万人、面積は9.3万km²、GDPは1,206億ドル（2015年）、通貨はフォリントである¹⁾。首都はBudapest（ブダペスト、ハンガリー語ではブダペシュトと発音する）。基本的に農業国で、国土は日本の4分の1であるものの、そのほとんどが平原であり、都市部を一步出ると、見渡す限り小麦やヒマワリの畑になる。

ハンガリーは、中央アジアにいた民族が西に移動して9世紀末（895年）に建てた国である。もともとはアジアにいた民族で、言葉など日本と共通するところが多い。たとえば、英語やフランス語では苗字の前に名前がくるが、ハンガリー語では日本と同じく姓の後に名前がくる。ハンガリー語の文法は、アイヌ語と共通点が多いと言われ、主語—目的語—動詞という語順は日本語と同じである。主語は動詞の活用の中に含まれており、日本語の「てにをは」にあたる接尾辞があるので、「大阪—へ—行きます」というときは“Oszaka（大阪）ba megyek.”となり、単語を入れ替えればそのまま日本語になる。単語の作り方も日本語と似ている。たとえば「歯医者」は英語ではdentestで、「歯」（tooth）とはまったく違っているが、ハンガリー語ではfogorvos（歯＋医者）で、日本語と同様である。

ハンガリー人は親日的である。外務省基礎データによれば「（日・洪）二国関係は、伝統的に極めて良好」だという¹⁾。筆者の友人たちは「日本製のものが多い。車は日本製に限る」と言う。実際にハンガリーの道路では、トヨタをはじめ日産、マツダ、スズキ、ホンダ、と日本車が10台に1台は走っている。最近はフォルクスワーゲンが圧倒的に多くなっているが、3、4年前は、5台に1台くらい日本車だった。

ハンガリーは経済大国ではないし、日本では知名度も低いし、GDPからすれば日本人の方が金持ちである（2015年のハンガリーの国民一人当たりGDPは12,240米ドル、日本は32,479米ドル³⁾）。しかし、ハンガリーの友人たちの生活を見ると、人間にとって本当の豊かさとは何だろうといつも考えさせられる。国民一人一人に与えられた面積は日本人の何倍もあるからか、一軒一軒の家はゆったりしていて庭も広い。写真1は友人の住む家の庭である。Budapest北東部のIsaszeg（イシャセグ）市の小さな湖のほとりにある。彼らはごく普通の階級の人々であるが、普通の人々の庭でもこのくらいの広さがあり、色とりどりの花や木が植えられており、さくらんぼやあんずやスモモがたくさん採れる。

ハンガリーは、夏は外気温が35度を超えるが、湿度が低く、家の中は25度くらいに保たれているので過ごしやすい。冬は、零下になり非常に寒いのが、写



＜写真1＞ハンガリーの一般家庭の庭



＜写真2＞ハンガリーの一般的な家の中

真2のように暖炉があり、床暖房になっているので部屋の中は暖かい。外の暑さや寒さを防ぐため、写真の窓枠のあたりを見るとわかる通り、家の壁は40センチ以上もある。

Ⅲ. ハンガリーの子育て

ハンガリーの子ども（0歳～15歳）人口は約144万7,000人で、全人口に対する構成比は14.6%となっている⁴⁾。日本では12.7%で（2015年度総務省発表）⁴⁾、あまり変わらないように見えるが、ハンガ

リーの街中で、公園で、駅で見かける子どもの姿は日本よりはるかに多い。写真3は、あるフェスティバルの中で、わらべうたを歌いながら歩いている親子連れである。有名な公園でもないのに大勢集まっている。

ハンガリーでは、日本と同じように、子どもを大切にしている。幼いうちは、とくに乳飲み子は母親のもとにいるのが当たり前と考えており、筆者の友人の二人の娘も、それぞれドイツ語の通訳やSEとして、結婚前は会社勤めをしていたが、出産と同



＜写真3＞ハンガリーの親子

時に家庭に入り、子どもたちが3歳になるまでは職場復帰しない。友人の長女は二人目の女兒を出産後、仕事に出ようとしたが、近くに乳児保育園（Bolcsode、IV節参照）がなく、母親（筆者の友人のこと）の賛成も協力も得られず、断念している。

乳児は母乳で育てられることが多い。友人の二人の娘をはじめ、筆者の会った赤ちゃんを持つ母親のほとんどは母乳で育てていた。それもあって、3歳未満児は家庭で母親のもとにいるのだろう。おむつは日本と同様、100%に近く紙おむつである。布おむつを干している風景に出会ったことがない。おしゃぶりを使っている子どもも多いし、ベビーカーが普及していて、3歳を過ぎている子もベビーカーに乗っているのは日本と同じである。しかし、日本に比べ、子育て中の父親や母親に向けられる視線は、ハンガリーの方が温かいように感じる。先にあげたフェスティバルの会場でも、見ず知らずの小さな子に大人たちは優しく話しかけ、ママの手伝いをしていた。

ハンガリーは小さな民族の小さな国家である。他民族から攻撃され、征服された歴史を持っている。それなのに民族としてのアイデンティティを守り続けられたのは、子どもたちに Magyar（マジャール。ハンガリーというのは日本をジャパンというようなもので、民族の名前はマジャール民族である。国名も Magyarország マジャールオルサグ、マ

ジャールの国という）民族としての誇りと歴史・文化を教え込んできたおかげである。筆者は2006年に0歳から16歳までの子どもたちが集うサマーキャンプに参加した。そのとき子どもたちは、16世紀にトルコ軍が攻めてきた時のことを題材に寸劇をしたのだが、くじ引きに外れてトルコ軍の役にされた男児らは「トルコ人の役なんて嫌だ」と大泣きしていた。400年以上も前のことをいまだに恨みに思っているのである。ソビエト連邦に支配されていた間は、小学校・中学校でロシア語が必修科目で、筆者の年代の国民はみなロシア語を習ったのだが、筆者がロシア語で話しかけても誰も反応しなかった。理由を聞くと、ソ連にもロシアにも彼らは良い感情をもっておらず、「さっさと（ロシア語を）忘れた」のだという答えが返ってきた。この間の中央ヨーロッパの文学作品について、現代ハンガリーを代表する作家 Esterhazy Peter（エステルハージ ピーテル）は、ロシアが国から出ていくまでは、ハンガリー語で文学作品を書いても、言葉通りの表現をしてこなかったと述べている⁵⁾。ソ連に表向きは服従していても、民族としての考え方は深く沈め、言葉の裏に真意をこめたという意味である。ソ連の支配は子育てにも影響したはずであるが、友人らはたとえばカトリックの信仰や日曜日には鶏料理を食べることなど、ハンガリー人ならではの伝統をソ連支配下でも母親から受け継ぎ、次代に伝えてきている。

＜表1＞すべての国民が受けられる、子育てに関する国からの援助

種別	対象期間	支給額
出産一時金	出産時	高齢者年金の最低月額 の225%＊2010年の額では 128,000 フォリント (約 51,000 円)
育児手当	2歳まで毎月支給 障害や病気を持つ場合は10 歳まで支給される	高齢者年金の最低月額と 同額 ＊57,000 フォリント (約 23,000 円)
育児支援手当	3歳～8歳毎月支給	同上
家族手当（収入制限あり）	18歳まで毎月支給 学生は23歳まで	子ども1人当たり月額 12,200 フォリント～ 20,300 フォリント (約 5,000 円～8,000 円)

＜表2＞出産前に就労していた母親への国からの援助

種別	対象期間	支給額
出産手当	出産後 24 週まで毎日支給	勤務当時の平均給与日額の 70%（上限なし）
育児手当	子どもが 2 歳になるまで毎月支給	勤務当時の平均給与月額 の 70%（上限あり）
病児休暇	1 歳～3 歳：年間 84 日 3 歳～6 歳：年間 42 日 6 歳～14 歳：年間 14 日	給与の 70%

Ⅳ. 子育てに関する国からの援助

ハンガリーは経済的に裕福な国ではないが、子どもと働く女性に対する援助は日本よりも手厚い。出産・育児にかかわる国からの援助を表1に示す（くるみの木教育研究所作成の表⁶⁾をもとに筆者が作成）

これらの手当は、母親の就労に関わらず、すべての親子が受けられる。次に母親が出産前に就労していた場合に受けられる援助を表2に示す（くるみの木教育研究所作成の表⁶⁾をもとに筆者が作成）

出産手当は、わが国ではたとえば国民健康保険の被保険者には支給されない。介護休暇の制度はあるが、たとえば筆者の勤務していた社会福祉法人立の保育園では、職員の介護休暇は、子ども一人につき年間5日に過ぎない。子どもは年齢が小さいほど病気をする。初めて入る保育園では乳幼児は「感染のシャワー」を浴び、発熱や下痢嘔吐のためにしばしば休む。職場復帰した母親は、子どもが保育園を休まなければならない、仕事ができない。それが年間84日もの病児休暇が与えられ、給与も保障されるなら、安心して職場復帰ができるだろう。

ハンガリーは第二次世界大戦後、ソ連邦の支配を受ける共産圏の国であった。先に述べたように、国民はソ連に面従腹背の状況だったが、女性が働くのが当たり前で、育児手当が手厚いというのは、共産圏の国に共通している。ただ、ソ連邦崩壊後、ハンガリーはEUに加盟したものの、経済状態は楽ではない。筆者の友人の娘婿も、リストラにあって以来無職であるし、年若い友人たちも定職に就けていない。そんな中、毎年のように物価が上がっている。そのためか、職場に戻る母親が増え始め、筆者の友人の長女のように乳児保育園に入れず困っている若い母親が増えているのは事実である。

Ⅴ. ハンガリーの保育制度

日本と大きく違うのは、ハンガリーでは3歳未満児と3歳以上児で、通う施設がまったく違うことである。前者が通う施設を乳児保育園 Bolcsode（ブルチューデ、ゆりかごとという意味のハンガリー語）、後者が通う施設を幼児保育園 Ovoda（オヴォダ）という。両施設の保育者を養成する学校も資格も異なっている。日本の0歳児から5歳児までが在籍する保育所と同じ施設はない。

表3は、乳児保育園と幼児保育園を比較したものである（サライ美奈氏作成の表⁷⁾をもとに筆者が作成）。

乳児保育園は、保護者から離れて過ごさなければならない子どもたちの健康を守るために作られたもので、当初から医師の介入が大きく、第2次世界大戦後の孤児たちを育てた Locy（ローツイ）乳児院の保育・養育を基盤とする優れた乳児保育の伝統を持つ。ローツイ乳児院で育てられた子どもたちにはホスピタリズムが現れなかったとして、フランスの心理学者たちが訪問してその理由を調べた。そして保育者が一人一人に向き合う保育を発見し、ローツイ乳児院の保育を高く評価した⁸⁾。それが今日の「担当制」につながっている。わが国でも0歳児組に担当制が導入されている。保育所保育指針にも、「乳児保育に関わる配慮事項」として「イ 一人一人の子どもの成育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育士が応答的に関わるように努めること」と書いてある⁹⁾（下線部筆者）。筆者の勤務していた保育園でも、数年準備期間において保育士らと学習会を行い、13時間開所の園だったため、厳密な担当制は敷けず、「ゆるやかな」担当制（決められた保育士が不在の時は同じクラスの保育士が代役を務める）を導入した。

＜表3＞乳児保育園と幼児保育園の比較

	乳児保育園	幼児保育園
管轄	人材省（社会・家族部門）	人材省（公共教育部門）
入園年齢	生後 20 週～3 歳 発達状況により 4 歳まで在籍可	3 歳～6 歳 就学猶予により 7 歳まで在籍可 2014 年度より義務教育となる
入園条件	保護者の就労あるいは疾病等	なし
保護者負担	給食費のみ（免除制度あり）	給食費のみ（免除制度あり）
保育指針	国の乳児教育プログラム 「流れる日課」「担当制」等分野別の 指導要領 各園独自のプログラム	国の幼児教育プログラム 各園独自のプログラム
保育士の養成	高校卒業後、2 年制の乳児保育士養成 専門学校 2 年あるいは 3 年制の乳児保育士養成 短期大学	高校卒業後、3 年制の幼児保育 士養成短期大学

次に保育基準を比較する。（表4）

3歳未満児を見ると保育士の人数が日本より少ないように見える。しかし乳児保育園によって違いがあり、筆者の知人（退職した乳児保育園保育士）は「20名の3歳未満児を3名の保育士で見ていたので、とても忙しかった」と言っていたが、サライ美奈氏によると、ブダペストにある公立マイバ乳児保育園では0～2歳児90人に対し保育士は16人、保育

助手8人で、ゆったり保育が行われている⁷⁾。

写真4は、幼児保育園の園庭の様子である（サライ美奈氏提供⁸⁾）。筆者の訪れたブダペスト郊外のSzada（サダ）市にあるS幼児保育園にも、G市のG幼児保育園にも同じ広さの園庭があった。東京では、ビルの一室にあって園庭のない保育園も増えてきているし、園庭があっても子どもたち全員が出て遊ぶことのできる広さはない園が多い。



＜写真4＞幼児保育園の園庭（サライ美奈氏提供¹⁰⁾）

＜表4＞保育基準の日洪比較（サライ美奈氏作成の表⁷⁾をもとに筆者が作成）

	ハンガリー乳児保育園・幼児保育園	日本認可保育所
職員配置基準	<p>子ども : 保育士 (人)</p> <p>0～2 歳 6 : 1</p> <p>2 歳 7 : 1</p> <p>1 部屋に最大 12 名 (全員が 2 歳になったら 14 名まで可)</p> <p>2 クラスに 1 名保育助手 (資格なし)</p> <p>3 歳～</p> <p>1 部屋に最大 25 名。保育士 2 名と保育助手 (資格なし) 1 名</p> <p>3 クラスに 1 名教育アシスタント (資格の有無を問わず園が選択)</p>	<p>子ども : 保育士 (人)</p> <p>0 歳児 3 : 1</p> <p>1 歳児 6 : 1</p> <p>2 歳児 6 : 1</p> <p>3 歳児 20 : 1</p> <p>4 歳児以上 30 : 1</p> <p>この基準を満たす人数の保育士 (有資格者) を置かなければならない</p>
面積	<p>0 歳児～3 歳児 保育室 4 m²</p> <p> 園庭 10 m²</p> <p>3 歳児～6 歳児 保育室 3 m²</p> <p> 園庭 50 m²</p>	<p>0 歳児ほふく室 3.3 m²</p> <p> 乳児室 1.65 m²</p> <p>2 歳以上 1.98 m²</p>
職員勤務時間	<p>乳児保育園は 1 日 8 時間。園内の勤務は 7 時間。1 時間は研修や保護者会や書類の作成などに充てられる。</p> <p>幼児保育園は 1 日 8 時間。園内の勤務は 6 時間半。1 時間半は研修や保護者会、書類の作成などに充てられる。</p>	<p>週 40 時間を超えない。勤務時間はほとんどが保育に充てられる。</p>

上記マイバ乳児保育園の園庭は2000㎡もあるとのことである。ハンガリーでは家々の庭も広いが、園庭も広い。

Ⅵ. 幼児保育園・乳児保育園の保育士の勤務時間と開園時間、提供される食事

(1) 保育士の勤務時間

Felső Ors (フェルシュールシュ、バラトン湖の北岸にある町) の Miske (ミシュケ) 幼児保育園の園長と話す機会があった。(2015年。この幼児保育園には筆者の友人の孫娘が通っている)。

Vの表4に示すように、保育士の勤務時間は、国の制度として決められている。園長から「日本の保育士は何時間働いているのか」と聞かれ、8時間だと答えると、「私たちと同じ」とうなずいていたが、次に「8時間の内容は」と聞かれたので「全部の時間、子どもと一緒にいる (保育している)」と答え

ると、「我々は子どもの前にいるのは6時間で、後の2時間は、保育日誌を書いたり、子どもについてカンファレンスをしたり、カリキュラムを立てたり、保護者と話したりする時間だ。日本の保育士はいつ記録を書いているのか」と言う。「昼食を食べながら、休憩しながら、あるいは8時間の保育が終わってから、記録等している」と話すと、驚いたように「とんでもない重労働だ」と言っていた。

この日は夏休み中だったが、子どもが2, 3人来て園庭で遊び、1時過ぎに帰って行った。園長一人で保育をしていた。他に保育助手がいて、園の内外を掃除していた。園長に、ハンガリーでも夏休み中、保育をするのかと聞くと、「夏休みは、保育園は開園しない。ほとんどの子どもは利用しないのだが、この子たちは母親の用事があるので特別に預かった」とのことだった。

ブダペストや Miskolc (ミシュコルツ) のような



＜写真5＞幼児保育園の正門（夏休み中）

大都市では夏も変わらず人の動きも車の動きも激しいが、子どもたちは夏休みで、学校だけでなく一般的には保育園も写真5のように門扉が閉まっている。

（2）保育時間と提供される食事、一日の流れ

表5は、いくつかの幼児保育園・乳児保育園の開園時間である。（サライ美奈氏作成の表⁷⁾を筆者が改変および追加）

ハンガリーでは朝が早い。6時にはパン屋やスーパーが開店する。代わりに夕方も早く、ブダペシュトから帰宅する車のラッシュは4時台から始まり5時ごろがピークとなる。

幼児保育園・乳児保育園の開園時間は表3のように施設によって違い、10時間から12時間であるが、一人一人の子どもの利用する時間は、その中の何時間かである。

筆者の訪問したG 幼児保育園では、7時に来る子が4、5名、13時以降も残る子が2、3名であった。7時に来た子たちは、保育園のダイニングで保育士の作る朝ご飯を食べていた。内容は、パンにキュウリやパプリカ（カラーピーマン）とサラミソーセージかハムをはさんだサンドイッチである。蜂蜜の入ったお茶を一緒に飲んでいて、10時には全員がプラムやあんずなどの果物を食べる。保育士によると、午前中に食べる果物は特別の効用を持つ

＜表5＞開園時間

	公立・私立	定員（名）	開園時間
M 乳児保育園	公立	90	6：00～18：00
K 乳児保育園	公立	72	6：00～18：00
M 幼児保育園	公立	120	6：00～17：30
J 幼児保育園	公立	200	6：00～18：00
V 幼児保育園	私立	25	7：00～17：00
S 幼児保育園	私立	50	7：00～17：00
G 幼児保育園	私立	24	7：00～17：00
M 幼児保育園	私立	90	7：00～18：00

ので、10時に果物を出すのだということだった。

7時から10時ころまで子どもたちは自由に遊ぶ。G 幼児保育園は Waldorf (シュタイナー) 教育を行っており、3歳から6歳(7歳)までの子どもが同じ部屋で思い思いの遊具・玩具を使って遊んでいた。保育士は、自分から遊びを主導することではなく、子どもの求めに応じて玩具を用意したり、一緒に遊んだり、時にはけんかの仲裁をしていた。

10時になると、その日の課業が始まる。ある日は外遊び、ある日は描画、ある日は絵本か絵のない本の読み聞かせ、等々メニューが決まっている。筆者の訪れたのは9月の初めだったのだが、外遊び(園庭遊び)を計画した日が氷雨の降る寒い日だった。こんな日は室内遊びに切り替えるのかと思って見ていると、全員レインコートと長靴に身を固めて、次々に園舎を出て行く。保育士は低年齢の子どもたちの着替えを手伝ったり、大きい子の園庭遊び用の道具を渡したりした後、これもレインコートを着て園庭へ出て行った。園庭には大きな栗の木(この栗は食べられない)やアカシアやリンデンバウムの木があり、子どもたちは木の葉や木の実を使ってままごとをしたり、追いかっこをしたり、固定遊具で遊んだりしていた。

昼食は保育士の一人が調理場に入って作る。メニューは lecsó (レチョー) という名のピーマンとベーコンの炒め煮や、肉と野菜の煮込みや、ロールキャベツなどである。蜂蜜入りのお茶とパンが添えられている。園児全員が12時過ぎに食堂に集まり、食前の祈りを唱えて(G 保育園はカトリック主義の園である)から食べていた。異年齢保育なので3歳児(満3歳になると入園できる)から7歳児(1年間の就学猶予ができる)まで同じ部屋で食べる。まだこぼさずに食べることの難しい子どもには、そばに保育士が付き添っていた。

G 幼児保育園は17時まで開園しているが、閉園時間まで残る子はおらず、昼食が済むとほぼ全員が母親の迎えで帰宅する。午後まで残る子は、保育士の見守る中で自由に遊び、遅くとも14時半には降園していく。その後、保育士はその日の日誌を書き、子どもたちについてのカンファレンスを行い、翌日の遊びの準備をし、17時ごろ帰宅する。筆者のハンガリー語力では理解できなかったが、一人一人の子どもについて、深く掘り下げて話している様子だった。5歳の男児が、登園時に母親と別れられず、窓にへばりついて泣いていたので、あの子はどうして泣いていたのかと聞くと、下に妹が生まれて不安定

なのだとの答えが返ってきた。

保育士らが「チアキ(筆者)の(勤めている)保育園は、朝は何時に始まるの?」と聞くので、「7時よ」と答えると「ここと同じだね」とうなずく。「何時に終わるの?」と聞くので「8時」と答えると、「え、1時間で終わるの?」と言う。「ちがう、ちがう、夜の8時よ」と言うと、「そんなに長い時間、園にいる子はいないでしょう」と言う。「いや、0歳児のお子さんでも、朝7時に来て夜は7時までいる子も何人もいるわ」と話すと、彼女たちは一瞬息をのんで顔を見合わせ、次に異口同音に言った。「信じられない、日本のお母さんたちは、わが子がかわいくないのね」。

VII. ハンガリーの保育園で大切にしていること

公益社団法人全国私立保育園連盟では、毎年海外の保育研修が行われている。イタリアのレッジョエミリア市や北欧と並んでハンガリーは人気があり、2016年現在まで4回の視察旅行団が組織された。以下に、愛知県へきなん保育園園長のユリア氏、ハンガリー在住のサライ美奈氏、筆者の体験から見るハンガリーの保育で大切にされていることを挙げる。これらは、必ずしもハンガリーのすべての保育園にあてはまるものではない。たとえば、筆者の訪れた Godollo (ゲデルー) 市の公民館の中にある幼児保育園では、プラスチックやキャラクターものの玩具が多く、自然素材のおもちゃは少なかったし、樹木豊かな園庭はなかった。しかし、一人一人の子どもを大切にする保育はわが国でも参考にすべき点が多いと考える。日本の保育園でも、一人一人の子どもを大切にして日々の保育は行われているが、ハンガリーではそれがより具体的に行われている点が優れている。

①安心と安定の原則

ハンガリーでは、乳児に対し、毎日決まった保育士が食事と着脱と午睡を担当する。このことにより、子どもと特定の保育士との間に強い信頼感と愛着が生まれる。わが国でも、これを参考にして「担当制」を取り入れている保育園は多い。V. で述べたように筆者の勤務していた保育園でも、担当制を取り入れたが、特に0歳児および家庭から入る1歳児にとって、「いつも同じ保育士が朝自分を迎えてくれて、日中の世話をしたり遊んだりしてくれる」ことは、子どもの情緒安定と保育園への適応に大きな効果をもたらした。

また、一斉にトイレに行かせたり、一斉に食事

を始めさせたりするのでなく、その子その子の生活リズムに合わせた「流れる保育」も、子どもを落ち着かせ、クラス全体、さらには保育園全体をしっかりとした雰囲気にする。トイレまで行列を作って待たせることもないし、子どもを急かす「みんな、はやく席にすわりなさい」というような大声での保育士の指示もない。ユリア氏によれば、「流れる保育」を行う乳児保育園で、保育士らの温かく適切なことばかけはどうしたらできるようになるのかと尋ねたところ、「(子どもたちの) 自立のためのことばかけを考えていて、同じことを繰り返し伝える忍耐力が必要。それは心から生じているもので、子どもの状態をよく見ていればわかる」との答えが返ってきたという¹¹⁾。一人一人を大切にする保育の具現である。

②あたたかく接する保育士

先に紹介したローツィ乳児院の優れた乳児保育の伝統を継ぎ、ハンガリーでは、保育士は子どもの一人一人にきちんと向かい合い、丁寧に言葉かけをする。おもむつを替えたり着替えをさせたりするときは、必ずその子の名前を呼び、顔を合わせ、ゆったりと世話をする。子どもからの言葉には温かく返事をして、応答性が高い。Ⅴ. に述べ

たように、わが国でも保育所保育指針の中に「特定の保育士が応答的にかかわること」と定められている⁹⁾。しかしながら、本学の学生の保育実習で、筆者を含め教員たちはあちこちの保育所に巡回に行って、必ずしも温かい保育所ばかりではないことをしばしば耳にするし、実際に見ている。ハンガリーの保育に今一度学ぶ必要がある。

③民族としてのアイデンティティを大切にする保育

民族としての文化と伝統を重んじると書くと、誤解されるかもしれないが、保育の上では、たとえば日本に古くから伝わる伝統的な年間行事を、幼稚園でも保育園でも大切にしている。5月のこどもの日の行事（こいのぼりや五月人形を飾り、ちまきや柏餅を食べる）や7月の七夕の行事（短冊に願いを書いて、他の飾りとともに笹に吊るし、7月7日にそれを燃やして「願いが叶いますように」と祈る）、9月のお月見行事と毎月のように季節の行事がある。これらは家庭ではなかなか行われなくなり、子どもたちは幼稚園や保育園で触れて楽しむようになっている。

Ⅲ. で述べたように、多くの国がひしめき合うヨーロッパの中央部にあって、東西南北7か国に囲まれているハンガリーは、他国の支配に遭った時



<写真6> 幼児保育園の室内（サライ美奈氏提供¹⁰⁾）

代を乗り越え、民族としてのアイデンティティを守ってきた。それは、乳児保育園でも幼児保育園でも、お話やわらべうたを大事にしていることからわかる。ハンガリーの生んだ大音楽家であるコダーイ・ゾルターンは、郷土に古くから伝わる民族の音楽をわらべうたから拾い、わらべうた教育を基盤とする音楽教育を行った。わらべうたにはその民族の母語に流れるリズムと音階がある。筆者の友人の保育士たちは、いつでもどこでも子どもたちに優しい声でわらべうたを歌っていた。何人かの子どもが集まれば、わらべうたを歌いながら遊んだり踊ったりしていた。写真3もそんな一コマである。

④子どもの発達に沿った保育

「流れる保育」は、子どもの発達や生活リズムに合わせて一人ずつ生活の介助をしていくだけでなく、年齢の高い子どもにも、それぞれの発達と興味に応じた遊びや遊具を提供することも意味している。

⑤子どもたちに自然のものを与える

写真6は、幼児保育園の一室である。家具もおもちゃも、ほとんど木でできている。筆者の友人の勤めるシュタイナー教育のV幼児保育園では、子どもたちは日々織物や編み物や羊毛の染色や木工をしていたが、素材にプラスチックや化学繊維のものはなかった。ディズニーなどのキャラクターものも見かけたことがない。写真6に見えるように、部屋に植物が飾ってあるが、地震のないハンガリーでは、このように高い棚に植木鉢が置いてあっても問題視されない。

参考文献

1. 外務省ハンガリー基礎データ <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hungary/data.html>
2. 荒谷ブログ <http://phaya.blog18.fc2.com/blog-entry-311.html>
3. IMF-World Economic Outlook Database、2016. <http://www.imf.org/external/pubs/ft/weo/2016/02/weodata/index.aspx>
4. 総務省統計局 <http://www.stat.go.jp/>、2015
5. Esterhazy Peter: Arany Budapest 2000. ハンガリー文芸クラブ編 / 訳、黄金のブダペスト、未知谷、東京、2000年
6. くるみの木教育研究所：ハンガリー保育研修資料、くるみの木教育研究所、札幌、2012.
7. サライ美奈：ハンガリー たっぷりあそび就学を見通す保育、かもがわ出版、京都、2014.
8. 星三和子：ロツツイ乳児院の発達・保育理論とフランスの保育、日仏教育学会年報、31: 124, 2003
9. 厚生労働省：保育所保育指針：62、チャイルド本社、東京、2012.
10. くるみの木教育研究所ホームページ：<http://www.kurumi-no-ki.net/kurumi/>
11. ユリア：ハンガリー 保育視察・体験研修報告、全国私立保育園連盟「保育通信」、718: 48, 2015.